

2006 土壌・地下水環境展

注目のHDD工法 幅広い汚染に対応し普及拡大を

奥田 早希子

OKUDA Sakiko

本誌編集企画小委員会



「2006土壌・地下水環境展」（主催：社団法人土壌環境センター，日刊工業新聞社主催）が10月11～13日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催された。2002年から隔年で開催され，3回目となった今回は前回を上回る104社・団体，185小間の出展規模となり，来場者数も30,539人と初めて3万人を超えた。

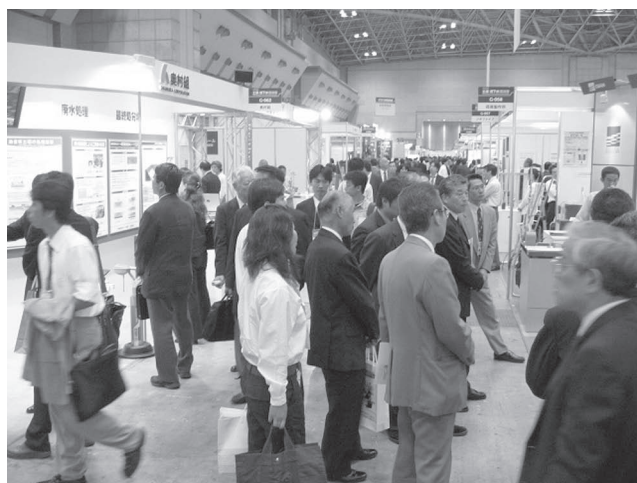
土壌・地下水浄化で注目される非開削技術といえば「HDD工法」。浄化用薬剤を地中に注入するためのパイプの敷設などに活用されている。今回，出展していたのは，奥村組，鹿島建設，キャプティ，清水建設，大成建設，間組など。

清水建設はスライドで解説，鹿島建設はデモ機，キャプティは実機を持ち込んで積極的にPRしていた。このうち，キャプティのブース担当者によると，施工機材「アースアタックモール」は適用事例が5件を超えたとのこと。「HDD工法のニーズはある」と今後の普及に大きな期待を寄せていた。

しかし，一方では，「前回に比べ（HDD工法の）出展状況が寂しい」（来場者），「水平井戸より縦井戸のほうが使いやすい」（出展者）との声もあった。その理由と改善策について，当協会のHDD委員会で議論していただきたいと思う。

最後に。会場で耳にした更なる普及に向けたヒントを紹介したい。

土壌・地下水浄化にHDD工法を適用する利点は，建物直下に汚染があったとしても，建物を撤去することなく施工できること。これまでそう言われてきたが，もう1つの利点として，縦井戸を複数本築造するよりも，水平井戸を1本敷設するほうが安価になるケースがあるということ。「HDD工法＝建物直下の汚



写真－1 会場風景



写真－2 デモ機を使ってHDD工法をアピールした鹿島建設

染」という方程式にこだわらず，幅広い汚染浄化への適用に期待したい。